

〔書言字考節用集六生植ハシキ檜万葉用同

〔鹽尻五十四〕一檜トウハ、俗に云はんの木なり、

〔大和本草十二〕ハリノキ宋宋祁益部方物略記曰、民家蒔之、不三年材可倍常、薪之疾種亟取、里人以爲利、杜子美覓檜栽詩曰、飽聞檜木三年大、東坡詩檜木三年行可標、檜ノ葉ハ榛ニ似タリ、山州江州ニ多シ、田ノアゼニウヘテ薪トス、長ジヤスシ、喬木トナル、枝ヲ切レバ田ノ妨トナラズ、實ヲウフベシ、又早ク其幹ヲ切レバ、一根ヨリ多ク叢生シ、荆ノ如ナルアリ、多クウヘテ可爲薪、一株立テ高大ナル木ト幹ヲ切テ、叢生シテ小ナルトハ別樹ノ如クナレドモ、一物ナリ、別木ニ非ズ、只早ク切リテ叢生スルト、不切シテ一株長ジテ高大ニナルトノ異ナリ、ヘラノ木ニ大小アルモ亦如此、ヒキハ其木ヨク榛ニ似タリ、故ニ日本紀神武紀ニ榛原トカキテ、ハリハラト訓ズ、東鑑ニ榛谷トヨム、其實ハ榛ニアラズ食フベカラズ、

〔和漢三才圖會八十三〕波牟乃木正字不詳

按波牟乃木生山中、高者二三丈、葉似栗而軟、花亦似栗花而褐色、實似杉實、其木肌心白色、見日則變赤、今染家用梅木煎汁、中投此木屑、經宿以染赤色、

〔古今要覽稿草木〕はりの木 檜

はりの木、今處々に多く栽て薪となす、此木生長の早きによりて、田畠路傍ともにあり、直立にして繁茂す、又一種やし。やふしも、はりの同類にして、葉圓大にして實も又大なり、此實染家に用ゆ、花は共に秋より生じて、開くは嚴冬より立春盛なり、はりの木を檜となし、詩を引て證とし、其形状模様ともに詳なる事は、大和本草を始とす、又蘭山は古今注の赤楊なりといへり、其文に霜降葉赤とあるに、少しだけ難し、尤風土によりての違ひあるべし、楓は紅葉の最なるものなれ共、本邦にては大樹に至りても、黃色に染るのみ、予秋にいたれば種々の霜葉をあつめ見れども、未